

発展を続ける国、中国

副団長 村山 勝利

今回、承德・北京を訪問して感じたことは中国は発展が著しい国ということである。

承德でまず感じたのは高層ビルが多く建ち並んでいるということだ。大通りから一本入ると依然として昔ながらの平屋が軒を連ね、野良犬が放浪しているというところもある。しかし、メインストリートではホテルや高層マンションが多く、商業施設や建売住宅をたくさん建築していた。

承德政府の方の話では（日本は一般的に高層階が高値となるが、）中国の場合は、災害時の備えなどから二階、三階など低層階のほうが人気があり、値段が高いそうだ。地震が多い日本ですら素晴らしい眺望を求める傾向があるというのに、大きな地震が少ない中国のほうが災害時や外出の億劫さを気にして低層階を求めていることに国民性の違いが表れているようで興味深かった。

また、広大な土地があり、敷地が広く使える中国に高層ビルの必要性は低いのではという問いに対して富・権力の象徴である高層ビルにはあこがれがあるという返答が返ってきたことは印象的だった。

もう一つ訪問前の印象と違っていたことは自動車が多いということである。認識不足で申し訳ないが、中国のイメージというと道路いっぱい広がる自転車だった。しかし、実際の承德市民の移動は自転車ではなく自動車が大半であった。日本であつたらトラブルになるのではと思うくらいクラクションを頻繁に鳴らし、二車線の道路に車が三台並走していることも多く、お世辞にも交通マナーが良いとは言えないが、たくさんの自動車が往来していた。これは日本と比べ、地下鉄など鉄道網が発達していないこと、物価が安くタクシーやバスの運賃が安いことも影響していると思われる。

来年以降、承德には高速鉄道が開通し、空港もできると聞く。北京オリンピック時に比べれば景気は後退しているかもしれないが中国はまだまだ発展していくだろう。

末筆となるが、両市の行政、国際交流協会、中国語を指導していただいた湯先生など今回の派遣にご尽力いただいた方々には大変お世話になった。中でも団長の長岡さん、特別引率の葛西さん、多言語を独学で勉強している頑張り屋の佐藤さん、ムードメーカーの周さん、一番年少で気苦労が多かったであろう大高さんには感謝の言葉が尽きない。

